

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成30年1月11日

協議会名: 中野市地域公共交通対策協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
長電バス株式会社	路線バス 立ヶ花線 中野駅⇄立ヶ花駅	・利用促進を図るため、全戸、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への交通マップの配布のほか、小学生を対象とした「バスの乗り方教室」を開催した。 ・住民の意識改革を図るため、財政負担等の数値データを発信した。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C ・事業が計画に位置付けられた目標を達成しなかった。 ・目標25.0人/日に対して、22.3人/日であった。	・利用者が減少傾向であるため、広報等を通じ利用促進を図るとともに、目標値やダイヤの見直しを検討する。
中野市	ふれあいバス 間山線	・廃止代替バスとして運行していた間山線の廃止に伴い、ふれあいバスの新規路線として運行を開始した。 ルートについては、観光施設を加えるなど見直しを行った。 ・利用促進を図るため、全戸、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への交通マップを配布した。 ・市民が親しみを持てるよう高校生デザインによるバスの車両の整備やバス路線の愛称を募集した。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A ・事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 ・目標15.0人/日に対して、20.1人/日であった。	・利便性の向上及び定時制を確保するため、H29.10から運行ダイヤ・運賃の見直しを実施し運行している。 ・目標を達成しているが、一層の利用促進を図るため、引き続き広報等を通じ利用促進を図る。
中野市	ふれあいバス 倭・科野地区	・「第2次中野市地域公共交通総合連携計画」に基づき、ふれあいバス間山線の運行開始とあわせ、ダイヤの見直しを実施した。 ・利用促進を図るため、全戸、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への交通マップの配布のほか、小学生を対象とした「バスの乗り方教室」を開催した。 ・市民が親しみを持てるよう高校生デザインによるバスの車両の整備やバス路線の愛称を募集した。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C ・事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 ・目標10.0人/日に対して、9.3人/日であった。	・利便性の向上及び定時制を確保するため、H29.10から運行ダイヤ・運賃の見直しを実施し運行している。 ・利用者がやや減少したことから、一層の利用促進を図るため、引き続き広報等を通じ利用促進を図る。
中野市	ふれあいバス 豊田地域	・利用促進を図るため、全戸、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への交通マップを配布した。 ・市民が親しみを持てるよう高校生デザインによるバスの車両の整備やバス路線の愛称を募集した。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A ・事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 ・目標1.0人/日に対して、3.5人/日であった。	・目標を達成しているが、一層の利用促進を図るため、引き続き広報等を通じ利用促進を図るとともに、ダイヤの見直しを検討する。
中野ハイヤー株式会社 株式会社山田タクシー 長電タクシー株式会社 (共同運行)	お出かけタクシー 中野・高丘・平野・延徳地域	・「第2次中野市地域公共交通総合連携計画」に基づき、利用者数の少ない時間帯の運行を廃止し、運行の効率化を図った。 ・利用促進を図るため、全戸、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への交通マップの配布のほか、小学生を対象とした「バスの乗り方教室」を開催した。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A ・事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 ・目標3.0人/日に対して、3.7人/日であった。	・目標を達成しているが、一層の利用促進を図るため、引き続き広報等を通じ利用促進を図る。 ・運行の効率化を図るため、利用者数の少ない時間帯の運行方法について検討する。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成30年1月11日

協議会名:	中野市地域公共交通対策協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>生活交通確保維持改善計画では、中野木島線、上林線、菅線(旧菅・角間線)、合庁線、永田線を基幹バス路線と位置付け、立ヶ花線、ふれあいバス、お出かけタクシーは枝線バス路線と位置付けている。枝線バス路線は、集落内を細かく回り、自宅近くから目的地若しくは、鉄道、基幹バス路線へアクセスし、利用目的は、通勤・通学・通院・買物と多岐にわたる。1便当たりの平均利用者数は決して多くはないが、日常的な生活の足としている利用者がいる。</p> <p>児童・生徒や高齢者等のマイカーを持たない人にとっては、生活の足として必要不可欠な路線であり、タクシー以外の代替する公共交通手段が存在しないことから、立ヶ花線、ふれあいバス、お出かけタクシーを「地域内フィーダー」と位置付け、確保・維持して行く必要がある。</p> <p>タクシー以外の公共交通を利用したくても、近くに駅やバス停がなく利用できない「利用不便地域」の解消を目指し、児童・生徒や高齢者等の中心市街地への移動支援を基本とし、「利用しようと思えば利用できる環境」を構築することを目的とする。</p>